

# すずむし

第 20 卷・1 号

(通 卷 106 号)

1970年11月

倉敷昆虫同好会

## 目 次

松野 宏: 近畿北部—中国地方におけるウスバシロチョウの分布	1
赤枝 一弘: 岡山県下の蝶おぼえ書き	11
赤枝 一弘: 岡山市の蛾類目録	12
おとしぶみ	
赤枝 一弘: 臥牛山のミヤマカラスアゲバ	10
赤枝 一弘: ホソバミツモソケンモノについて	23
赤枝 一弘: 大山でキヌツヤハナカミキリを採集	11
水野 弘造: Maddester 雜言録 (10)	24
会 報	24

# 近畿北部—中国地方における ウスバシロチョウの分布

松 野 宏

(長崎市矢の平町338-65)

ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* BUTLER は、典型的な北方系の蝶とされる *Parnassius* 属の本州以南に於ける唯一の代表種で、五月に清楚な白い姿を現して私達同好者を喜ばしてくれる蝶である。

以前からこの蝶に若干の疑問を抱いていたので、西南日本での分布状況について各地の資料の集成を行って見た。実際に私自身が採集した地域は余り多くなく、諸先輩の業績によるものではあるが、広域的な資料を余り見ないので、近畿地方北部から中国地方にかけての分布相の概略について、ここに記すこととしたい。

## 1. 資料について

蝶の分布に関する知見は、「日本産蝶類分布表」(白水隆編, 1958) によりそれまでの資料がまとめられており、その後も年々新しい資料が各所に発表されている。

しかし、一つの種の広域に亘る分布相を概観するのは、これら個々の資料を見たのみでは分り難いもので、どうしても各地の記録の集成と検討が必要だが、これが案外難しい。

それでも本種の場合は、その生態から考えても移動性が少いため、取扱いに困る迷蝶の記録は殆んど無く、逆に発生地には多産するから、シーズンに調査すれば網の目を洩れる事は先ず無い。また比較的人気のある目立つ蝶なので、一般の採集記に記される事も多い。これらの点から、こう言った分布調査には最も扱い易い蝶であろう。これが目立たぬ普通種だったら、数段困難となるに違いない。

なお、一般的に言って從来の記録や資料自体に問題がない訳ではない。先ず、調査や記録がまとめられる際に府県別に行われる事が多いため、人為的な県境が資料の限界になってしまふケースがある。その他、各地の資料の精度に差のある場合も多いこと（ここで言う精度が低いとは、不確実の意味では無く、例えば○○山方面とか△△郡一帯とかの記録を指す）。“探してもいない”というネガティブの記録は滅多にないこと、等々も挙げられる。

これらの結果・分布図を作つて行って空白が出来たり、或いは県境の両側で分布密度が違っている場合、本当に分布しないのか、或いは調査が充分に行われていない為に分らないのか、それとも単に私が資料を集める事が出来なかっただけなのか、判断に苦しむこととなり、ある程度は推測で埋めざるを得なかった。

各地の資料の蒐集については、個人で集める程度では限度があり、各地の同好の方々のご厚意により直接教えて頂いた部分も多い。

ご教示頂いた方とその主な地域は、井崎市左衛門（福井県）、嶋田勇、足立勲（京都

府), 山本広一(兵庫県), 小林一彦, 岡垣弘(鳥取県), 赤枝一弘(岡山県), 池田寛(山口県)の諸氏である。また、鳥取大学農学部の河野洋教授には一部資料の閲覧の便宜を図って頂いた。ここに記して共に深く感謝の意を表する次第である。

## 2. 調査範囲

ここで対象とした地域は、敦賀一伊勢湾を結ぶ線以西の近畿地方(紀伊半島を除く)と中国地方である。敦賀一伊勢湾の線は、地学上の地形区では西南日本と中央日本の境界に当り、昆虫の分布でも何らかの境界となっていることも多いかと考えて設定したものであるが、結果的には本種の場合は格別の意味はなさそうで、従って余り広範囲にならぬよう適当に区切ったものと考えて頂きたい。

西南日本の外帶、つまり紀伊半島と四国についても調べたかったが、資料不足で間に合わなかった。この内、四国山地での本種の分布範囲は(密度は別としても)案外と広く各地に亘っている。紀伊半島については分布を記した文献もあるが、詳しい資料を見出しえなかつた。なお、九州では記録は全く無く、分布しないことは確実とされている。

以下、各地方の産地を記すこととする。

## 3. 各地の分布状況

### (1) 滋賀県とその周辺

先ず滋賀県を中心見てみよう。東南部では鈴鹿山脈北部の藤原岳付近に局所的な産地がある。東麓のものは三重県唯一の産地として有名であるが、滋賀県側、愛知川最上流の茨川にも記録があり、これだけで孤立した分布圏を作っている。

伊吹山から福井県境へかけての滋賀県東北部の山地は本種の多産地で、岐阜県・福井県越前地方の産地へと続いている。滋賀県内では、上草野、中之郷、柳ヶ瀬などが産地名として挙げられ、福井県へ入ると敦賀市愛発に記録があると言う(井崎氏私信)。同市から更に今庄方面へと分布が続いている模様であるが、ここでは詳しくは触れない。

この付近から西へ、湖北地方から福井県若狭地方の山地には各所に分布しているものと推定される。手許の資料では滋賀県マキノ町百瀬川、今津町保坂付近があり、福井県では小浜市(旧遠敷村)上根来一下根来一帯が多産地として著名で、上中町にもいると言う。その他、福井県の古い目録には三方・遠敷・大飯(各郡)地方と記されている由で(井崎氏による)、これは若狭地方全部という事になる。山間部を探せば産地が発見されるであろう。滋賀県西部の産地は京都と一括して次に記す。

### (2) 京都北山周辺

京都市北方の山地、いわゆる北山は本種の好採集地として知られる。一般に北山と言う範囲は広いが、本種の産地は京都・滋賀の府県境に沿う地域の谷間に多い。

この付近は比良山の他は高い山も無いが地形は複雑で、京都盆地北端の貴船・鞍馬の背後は桂川上流の大堰川流域となり、西寄り(下流)は北桑田郡京北町、東側は現在京都市となっている旧花背村である。更に東へ滋賀県に入ると比良山の裏側を北流して琵琶湖に注ぐ安曇川の深い谷で、堅田町(旧葛川村)や、京都市久多がこの流域となる。

これらの地域の北側は分水嶺を越えて日本海斜面の由良川の最上流、美山町となり、更に山を隔てて福井県に接している。

さて、この一帯からの記録を見てみよう。まず貴船からも採集記録はあるが、これは偶產と考えられる程度である。しかし、前述の山間部の谷に入ると多產地が多く、旧花背村の大悲山・大布施・広河原など、京北町ではこれらに連なる芹生・灰屋、稍々西へ離れて深見峠、安曇川上流では坊村・中村・久多などで、谷間ではないが大見・尾越からも知られる。

滋賀県側では、更に福井県に近い朽木村の記録もあるが、比良山の琵琶湖側にはいない。由良川上流では、佐々里・芦生・須後から最上流の京大演習林方面、更に福井県境の知見からも最近発見された<sup>5)</sup>。この地にも県境沿いの山間部にはまだ產地があるものと思われるが、確実な記録は見出しえなかつた。

### (3) 兵庫県西部までの中間地帯

京都付近から目を移すと次は兵庫県中央部以西が多產地帯であるが、それまでの間の地域は日本海に近い所に局地的にいるのみで、京都府西南部・大阪府・兵庫県東南部に亘って分布の空白地帯がある。この一帯は古くから調査は行なわれている筈なので、分布しないと断定してよいであろう<sup>註1)</sup>。

日本海沿いの產地としては、先ず舞鶴市与保呂がある。前述の通り、ここと京都北山方面との間（福井県側も含めて）にはまだ產地があるものと思われ、且つ相当以前に綾部市の奥地で唯1頭の偶產記録がある旨の記事を見た記憶もあるが、詳しいことは分らない。同地の発生状況は極めて局地的で、もし付近に別の產地があつても連續的分布と言う感じには程遠いものである。なお、近畿以西では最も海に近い產地（河流沿いに約7km）と思われる<sup>註2)</sup>。

次に京都府の北端、日本海に突出した奥丹後半島の中央部、太鼓山山麓に產地がある<sup>3)</sup>。多產するそうだが全く孤立した產地である。

他に京都府北部では綾部・福知山地方のリストにも本種は見当らず、恐らく分布していないと思われるが、特殊な產地として上記の太鼓山から移植された福知山市三岳地区がある。昭和21～23年頃に芦田豊と言う人が移したもので、現在も発生していると言う<sup>4)</sup>。

少し西へ兵庫県に入ると、和田山町東北部の竹ノ内から記録がある。但馬地方の多產地帯からは円山川沿いの平地を隔てて稍々離れた所である。しかしのこ付近の調査はまだ十分ではない。

### (4) 兵 庫 県

兵庫県下の分布状況は山本広一氏によりその全貌がまとめられている<sup>7)8)</sup>。北部には未調査地域もあるが、これも遠からず明らかにされるであろう。

これによると產地は上記の和田山町を除けば、姫路一和田山一豊岡を結ぶ線、河川で言えば市川一円山川の線以西である。以東でも北部には発見の可能性があるが、南部では探し尽されたと見てよい。

記載された產地は数多いが、中心は段ヶ峰から西北へ氷ノ山へかけての山地で、更に鳥取県へと多產地が続いている。

先ず南部では姫路市の北方、雪彦山南麓が知られているが、近年は減少しているらしい。段ヶ峰周辺では、東南の市川へ注ぐ谷では分布は連續的でないしらく、記録の多いの

は西側と北側である。西側は揖保川の流域で、一宮町の高野・千町など旧三方村一帯に多く、更に西の鳥取県に接する波賀町（揖保川の支流・引原川上流）は、戸倉・道谷・音水等、産地の密度、個体数とも文字通り多産地である。この付近から西南の岡山県に近い千種川上流からも採集されているが記録は少なく、或いは多少局地的な分布となっているのかも知れない。

意外なのは一層南に寄った上月町西大畠である。標高僅々 150m、付近も低い山ばかりで、北部の多産地などとは様相が異なっている。ここは兵庫県下で最初に本種が記録された場所の由であるが、現在も発生している事が確認されている<sup>9)</sup>。

日本海斜面を見ると、段ヶ峰の北麓、明延・神子畑付近から西北へ大屋町の山間部（旧西谷村）、更に氷ノ山・鉢伏山周辺へと産地が続く。同山山麓一帯に本種は多く、東麓の関宮町（旧熊次村）福定・丹戸・大久保などが有名である。これらの北側に続く村岡町にも各所に分布するようで、二・三の産地は私自身も確認している<sup>8)</sup>。しかし、同町の東北部から豊岡城崎方面の山地では調査は殆んど行われておらず、海岸に近い浜坂町にも産地があると言うが、総じてこの付近の分布状況は完全には分っていない。

氷ノ山の西北にある扇ノ山付近も本種の産地として以前から紹介されており、北側の岸田川の谷間から約 1000 m の高原でも採集されている。

#### （5）鳥 取 県

殆んど全県に亘って本種が分布し、多産地も数多い<sup>11)</sup>。鳥取市を中心とする東部（因幡地方）では、鐘尾紀昭・小林一彦氏らによってかなり以前に分布調査と考察がなされている。その後の探索によって記録された産地は増えているが、その条件などは当時の報告<sup>10)</sup>通りであり、両岸の山と標高差のかなりある狭い谷間で谷底の標高が 200m 以上あれば、山裾の斜面などに必ずいるものとしてよい。

主な産地を挙げると、兵庫県境の扇ノ山・氷ノ山山麓では岩美郡国府町（雨滝・柄本など）八頭郡郡家町（旧私都村方面）若桜町（市街地付近より上流の谷）の各地、岡山県境方面では智頭町（篠坂・芦津・穂見・大屋・宇塚・宇波など山間部各地）、佐治村（加茂以奥）、鳥取市西南部に続く山地（後記の三徳山とも近い）では河原町落河内、鳥取市安蔵などで、鹿野町の河内にもいる。

倉吉市を中心とした県中部では、三朝から奥に入った吉原・門前など三徳山周辺に記録が多く、南側の人形峰に近い木地山などの山間部にも産する。大山の東麓には記録が少いが、関金町の野添付近と加勢蛇川上流の谷で採集されたようである。

大山は昆虫の宝庫として有名だが、この山の北側斜面からは発見されない。火山性の裾野が拡っているので恐らく棲息適地が無い為であろう。

鳥取県西部の日野郡方面では、大山西南麓の旧米沢村付近から日野川沿いに黒坂・上菅方面、更に上流の日野町上石見・日南町多里にも谷筋に産地が多い。しかし日野川の西岸では、根雨付近より下流には分布していないようである。これは島根県の分布状態（かなり奥地に入らないといない）に似ている。

#### （6）岡 山 県

思ったより記録の少いのがこの県である。東北隅の英田郡大原町方面にいるとの話はあ

るが明確でない。しかし県境の西栗倉村あたりにいる事は隣県の状況から容易に想像出来る。那岐山の記録もあるが場所が判然とせず、或いは同山北麓の鳥取県側のものかも知れない。ここから稍々西の因美線沿いの加茂町からも記録がある。これも詳細は不明であるが、この付近の地形や鳥取県側の分布から推して、かなり多いのではないかと思われる。

各所で標本を見る事が多いのは苦田郡奥津町・上斎原村一帯のもので、このあたりには殆んど連続的に分布している模様である。その東隣りの鏡野町越畠付近にも多い由で（赤枝氏私信）、久米町大井西の記録もある。

南へ下って美作町林野の採集記録がある。その後の発生状況などは分らないが、兵庫県上月町と並ぶ、山地から離れた例外的な産地と言ってよい。

さて以上は何れも吉井川流域であるが、西の旭川流域では勝山町神庭の滝が本種の産地として知られる。しかしこの上流は湯原・蒜山まで深く入り、好採集地も多いに拘らず採集記録は無く、本種はいないものとしか考えられない。この点は赤枝氏も同意見であるが不思議な感じである。なお、この西側の新庄村での倉敷昆虫同好会の調査（5月下旬）にも本種は出て来ない<sup>12)</sup>。

県西部を流れる高梁川流域では大佐町大佐山や、新見市西川流域の谷に記録がある。実態は不明の点もあるが、新見市周辺には相当いるのではないかと推測される。

以上の通り、岡山県下の産地は林野を除けば県北部の中国山地に限られていると言える。

#### (7) 広 島 県

広島県下の産地は、県東北部の道後山・比婆山方面の高地と、西北部の冠山・恐羅漢山を中心とした区域に分れている<sup>14)</sup>。この間には江川閂門と呼ばれる低地（山峠と言った方が適切かも知れない）があり、つまり中国山地と共に本種の産地も二分されている事になる。

先ず東北部を見ると——実は私はこの地域を殆んど歩いた事がないので、感じを摑み難いのだが——比婆郡東城町・西域町・比和町・国和町に亘り、特に高野町一帯には多産するらしく、俵原・新市・和南原等々、多数の産地名が記録されている。この付近は地形図で見る限りは高原状の平坦な所が多く、鳥取県あたりの谷間とは環境が違うものと推測される。古く産地として報告された帝釽峠は少し南へ離れて標高も低いが、概してこの地域の産地はまとまっている感じである。

これに対し西北部のいわゆる冠山山地では、芸北町才乙から三段峠付近（柴木・松原など）を経て冠山山麓に至る山間部から報告されているが、従来の記録の密度は比較的薄かった。しかし最近、戸河内町、加計町周辺での産地が数か所発表されており<sup>15)</sup>、まだ各所で発見されるものと思われる。

#### (8) 島 根 県

この県の記録は著しく少ない。これは単なる資料不足によるものと考えられるが、鳥取県と比べると分布地域は相当限定されている事は確しかである。

先ず、鳥取・広島両県に接する東部の山地では、仁多郡横田町（旧八川村）と仁多町（阿井）の記録がある。この付近には隣県の状況から推して他にも産地があると考える。

県の中央部には広島県同様の分布の空白がある、次の確実な産地は最西南端の鹿足郡まで飛ぶ。ここでは津和野町の青野山麓が以前に産地として紹介されているが、六日市町と柿ノ木村の山間部に少なからず分布する<sup>13)</sup>。

鹿足郡の美濃郡の山地は広島県三段峠付近の日本海側に当り、本種が分布しているのは確実と思われるが、資料を入手出来なかった。

なお、浜田市三階山を産地として挙げた文献もあるが、これは小学生の採集品に基づく唯1回の記録と思われ<sup>17)</sup>、この付近に土着しているとは考え難い。

#### (9) 山 口 県

ここでは玖珂郡錦町（旧高根村）での記録が最初である。県下の昆虫の好採集地として知られるこの地区は広島県と島根県に挟まれた所で、錦川の支流佐川が流れている。本種は最奥の常国付近に多いが、私は稍々下流の宇佐郷付近でも目撃しており、この付近にも産地があるのかも知れない。

ところが錦川の本流沿いの錦町旧広瀬町地区や鹿野町は、山を隔てて島根県の産地に接し、且つ棲息適地と思われる所があるにも拘わらず本種は見つからない。まだ断言は出来ないが今の所は空白地帯である。

しかし更に西、防府市に注ぐ佐波川上流の徳地町三谷川流域には、局地的ではあるが確実に棲息する。“BOFU”的ラベルのある標本を見た事があるが、これも恐らくこの付近の採集品であろう。そしてここが本種の分布の西限と考えられる。

#### 4. 問 題 点

以上述べたウスバシロチョウの産地を地図上に記したものが第1図である。

地域による記録の疎密にはなお検討の余地があるが（密集地域では近接した産地を1点で示したものもあるので、記録の数だけ取り上げれば疎密は更に極端になる）、大勢としては大きな間違いはないものと考える。

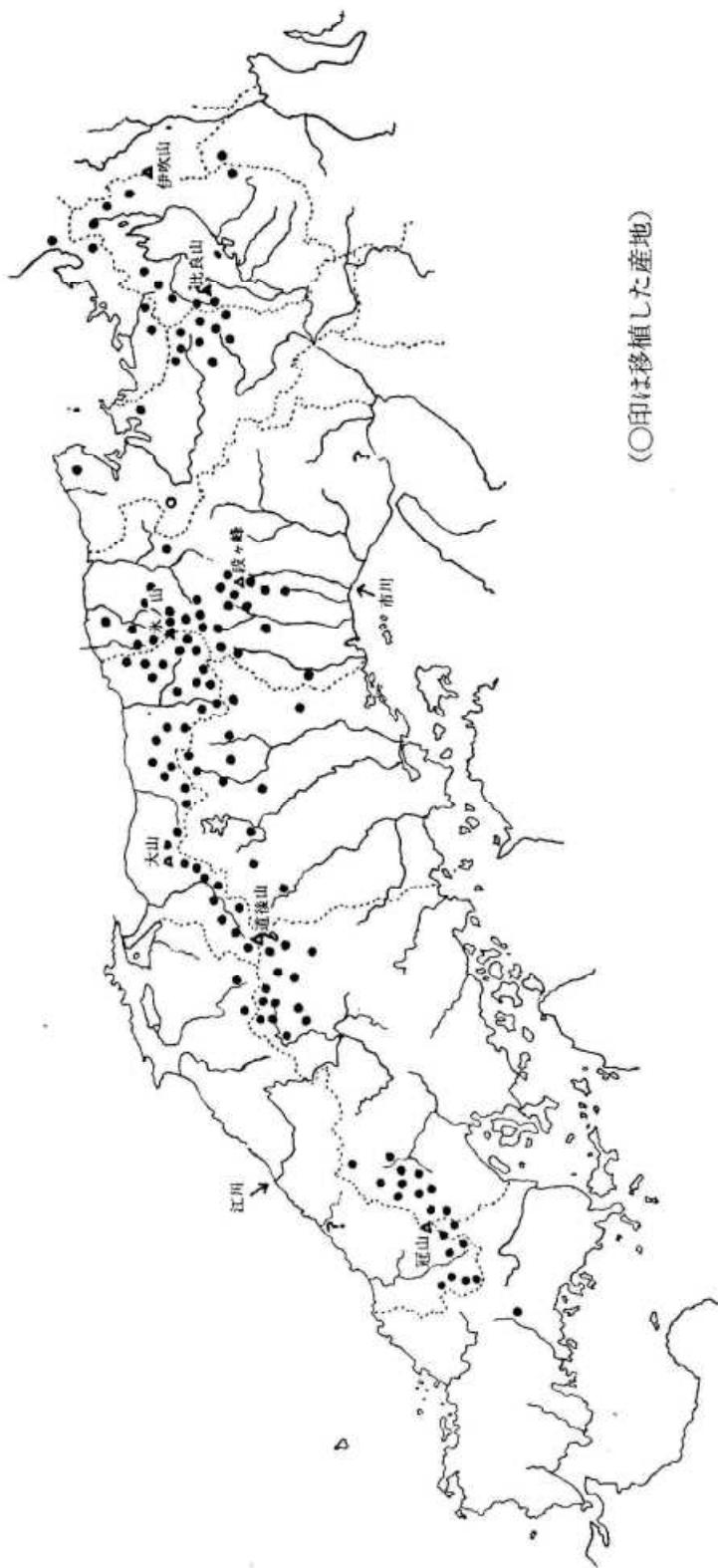
しかし、分布の由来についてなどの立入った考察は、各発生地の自然・条件もよく調査していない今の段階では私には難しい事である。ただ、この地図を見て気付いたことを二・三記して置こう。

(1) 先ず、本種の分布地域は比較的明瞭な幾つかのブロックにまとまっている事が分かる。第2図は推定部分も混えて大ざっぱにその範囲を描いたものである。

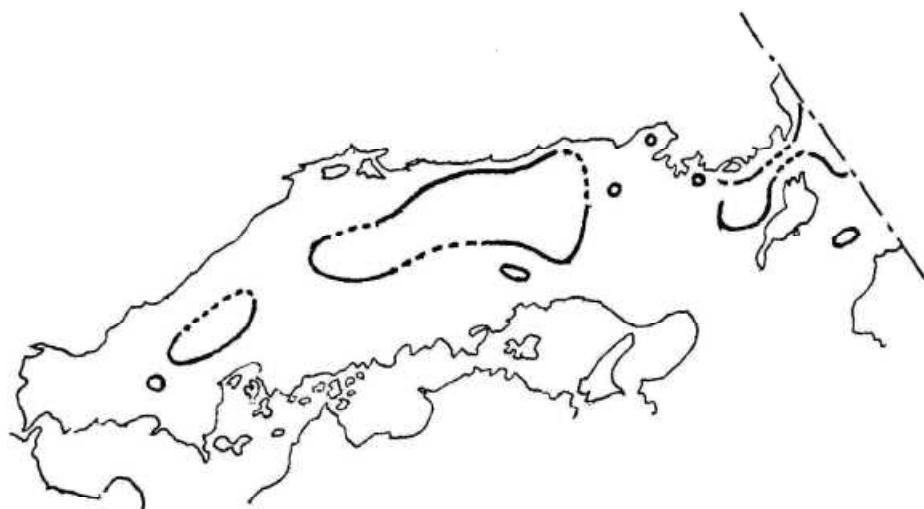
いわゆる北方系の種では、このように近畿地方の分布は稀薄または空白で、中国山地に再び分布圏の現われる傾向があるが<sup>18)</sup>、本種の場合はヒメシジミなどの草原性の種ほどには分布は限定されず、そのパターンにも相違が見られる。

ところでこの分布パターン、特に中国地方の状態は、地形区分図（第3図）と似た所がある。兵庫県西南部に例外はあるが「中国高原」には分布しない、と言ってよい。本種の分布が地形に直接または間接に影響されている事は既に指摘されているが<sup>18)</sup>、これも大局的に見ての地形との関連を示すものではないだろうか。

兵庫県中部以東の空白地帯は地形区分には現われていないが、本種の棲息適地が少ないのは確かである。しかしこの地域や中国高原にも部分的には適地が無い訳ではなく、福知山の移植の成功はそれを裏付けている。本種の棲息の条件については、例外的な産地のそ



第1図 ウスバシロチョウの既知産地（近畿北部及び中国地方）



第2図 ウスバシロチョウの分布図（点線部分は推定）



第3図 中 国 地 方 の 地 形 区  
(渡辺光, 1952: 理科年表所載の図より略写)

れを含めて、なお検討しなくてはならない。

(2) 次に本種はその生態上、河流沿いに分布を広げ、或いは移動していると思われ、実際に多産地のある谷の下流で散発的に採集される事も多い（河川の流域毎にすれば産地の説明にも便利なので、ここでもそれを用いてある）。しかし部分的には兎も角、これだけでは現在の分布の説明にはならないようで、例えば鈴鹿山脈藤原岳では山の東西に局地的産地があり、京都北山では多数の産地が複雑な水系にまたがっている。逆に兵庫県の市川流域では、西側に注ぐ支流の上流にはいるが東側からは見出されない。それでも山口・島根県境のように山の北側に多産するにも拘わらず南側にはいない例もあり、単純に割切

れないものがある。

(3) さて、これらの分布状況と地方変異の関係はどうか、と言う問題もある。これには先ず本種の変異の実態がどんなものかを知らねばならない。その訳は、よく表日本型とか裏日本型とか呼ばれているが、少し詳しく見ると幅広い個体変異があってとても単純に区別など出来ないからである。私も多少の材料を集めたが、地方的な変異——厳密に言えば“個体変異の幅の地方的変化”と言うべきである——は存在するが、クラインなどをなしているとは限らず、極端には谷毎に違うのではないかと思えるフシもある。

何れにせよまだこの問題を詳しく論じる事は出来ないが各地の標本を一見した感じを記すと、北陸方面のものは一般に暗化が強く、この傾向（さでも前翅の暗化と共に後翅亞外縁に黒帯が現われる）を持つものが多いのは、滋賀県東北部は勿論、藤原岳・京都北山・小浜・舞鶴産も同様で、更に兵庫県北部から鳥取県東部の一部分に及んでいる。従って、これだけ見る限り、現在の分布のブロックや産地の遠近には関係無く、また分水嶺で分かれているのでも無さそうなのである。

この問題は近年各地で調査研究されているようなので、今後が期待される。



以上、今までに私の知り得た本種の分布状況の概略を述べて見た。私自身が十分な基礎を持たぬまま、諸先輩の資料を勝手な推測により寄せ集めたもので、粗雑な意に満たぬものではあるが、今後の分布調査等の参考に供すると共に、諸賢のご批判・ご叱正を仰ぎたい。  
(1970年1月記)

註 1) この地域内でも神戸市の六甲山には採集した話があり、山本広一氏により詳しい考証がなされている<sup>1)</sup>。結論は出でていないが、私としては疑問に思えるので一応除外した。

註 2) この産地は私が昭和23年に発見したものだが<sup>2)</sup>、その後昭和28年の水害により谷間は徹底的に荒廃してしまったので、既に絶滅したかも知れない。

註 3) 従来もこの付近で採集はされている由だが記録を見ないので、私の採集結果を記すこととする。

島根県鹿足郡柿木村猿田原付近 8 ♂, 18. V. 1969.

同村 中河内 14 ♂ 4 ♀, 18. V. 1969.

同村 馬地 3 ♂ 1 ♀, 18. V. 1969.

同六日市町 幅井谷 3 ♂, 18. V. 1969.

同町 九郎原 1 ♂, 10. V. 1969.

同町 河津 (＝山口県玖珂郡錦町河津) 8 ♂, 10. V. 1969.

(ここは一つの部落が山口・島根両県にまたがっている珍しい所である)

註 4) 淡水魚のイワナの分布もこれと同様の傾向があるらしい。(今西錦司: イワナ属、自然一生態学的研究、中央公論社, 1967)

## 主な参考文献

- 1) 白水 隆: 日本産蝶類分布表, 北隆館, 1958.
- 2) 京都昆虫同好会編: 昆虫採集地案内(近畿地方), 同会発行, 1956.
- 3) 丹後蝶類同好会: 丹後蝶類生態目録, 同会特別報告第1号, 1968.
- 4) 松野 宏: 東舞鶴産蝶類についてのメモ, 丹後に生きる蝶(2), 1968.
- 5) 足立 熊: 京都府北桑田地方の蝶, 昆虫と自然, 4(9), 1969.
- 6) 昭和41年6月5日付読売新聞京都版の記事による(写を嶋田勇氏より頂いた).
- 7) 山本 広一: 兵庫県下のウスバシロチョウについて, 兵庫生物, 6(1), 1969.
- 8) —— : 続兵庫県下のウスバシロチョウ, MDK News, 21(1), 1969.
- 9) —— : 兵庫県下にウスバシロチョウを尋ねて, はばたき 92, 1969.
- 10) 鐘尾 紀昭: 鳥取地方のウスバシロチョウ分布について(第5回全国学生昆虫学大会発表要旨) 新昆虫 7(12), 1954.
- 11) 小林 一彦: 鳥取県産蝶類略目録, 鳥取県立科学博物館所蔵目録5, 昆虫類目録, 1968.
- 12) 重井 博・青野孝昭・小野 洋・近藤光宏・林 憲一: 新庄村の昆虫調査報告 その1, すずむし, 13(2), 1963.
- 13) 倉敷昆虫同好会: 岡山の昆虫, 日本文教出版(株), 1968.
- 14) 保田信紀・宮川和夫・金沢久夫・鎌塚 堅・中村慎吾: 広島県の蝶類, 広島虫の会会報第6号, 1967.
- 15) 宮川和夫・沢野邦彦・瀬田 洋: 蝶4種の産地追加: 広島虫の会々報第8号, 1969.
- 16) 近木 英哉: 島根県の昆虫目録I鱗翅目, 島根農科大学研究報告10(A), 1962.
- 17) 藤村 俊彦: 島根県に於ける蝶の分布10題, 新昆虫, 11(13), 1958.
- 18) 高橋 真弓: 静岡県とその周辺におけるウスバシロチョウ分布, 蝶と蛾, 17(1・2), 1967.

## &lt;おとしふみ&gt;

## 臥牛山のミヤマカラスアゲハ

臥牛山のミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii tutanus* FENTON はだんだん採集されていると思うが、発表された記録がないのでここに私の採集したデーターを上げておく。

5. V. 1966, 3♂. 赤枝
6. VII. 1969, 1♂. 赤枝

(赤枝 一弘)

# 岡山県下の蝶おぼえ書き

赤 枝 一 弘

(岡山市西大寺中野734の4)

最近では県下の蝶の採集記録がすずむし誌上に出ないので、筆者の記録を中心にいくつか書いてみたい。

1. *Papilio maackii* FENTON

ミヤマカラスアゲハ

従来中部以南の記録は少なかったが最近では臥牛山や広瀬附近でかなり採集されているようである。筆者も臥牛山の採集例を上げておく。

高梁市臥牛山, 4 ♂, 5. V. 1966.

本種の県中部からの記録は圧倒的に春型が多いことを付記しておく。

2. *Wagimo signata quercivora* BUTLER

ダイセンシジミ

新見市草間での本種の記録は, 25. VII. 1962. 青野, しか発表されていないが, その後かなりの個体が採集されていると思う。筆者の手元にも次の標本がある。

新見市井倉~草間

1 ♂, 1 ♀, 21. VI. 1964. 那須採集

2 ♀, 19. VI. 1966. 赤枝採集

3. *Melitaea diamina* FRUHSTORFER

ウスイロヒョウモンモドキ

草間の本種はやはり青野氏が22. VI. 1956. に記録しておられる。その後浅野氏も採集されたと聞いたが、筆者は長年採集できなかった。1966年には那須氏と行った際、彼はどうしても採ると1列車遅らし、目的をはたしたが、筆者は早く帰り採れなかった。しかし本種は普通我々の行く、井倉から草間部落の登りには生息せず、いわゆる草間部落を中心に入ることが分った。ようやくのところで1967年採集することができた。

新見市草間 11. VI. 1967. 赤枝

4. *Thymelicus leoninus* BUTLER

スジグロチャバネセセリ

筆者の考えでは本種は個体数の少ない種と思っていたが、1966年湯原には本種が多産することが分った。当日は採れるセセリチョウは全部本種といってもよかったです。

真庭郡湯原町, 3 ♂, 21. VII. 1966. 赤枝。

## 〈おとしぶみ〉

### 大山でキヌツヤハナカミキリを採集

筆者は25. VII. 1969. 大神山神社裏のノリウツギ花上よりキヌツヤハナカミキリ *Corennys sericata* BATES を採集した。従来本誌上に発表された記録にはないようであるので報告しておく。

(赤枝 一弘)

## 岡山市の蛾類目録Ⅱ

赤枝一弘

岡山市西大寺中野734の4

### Notodontidae シャチホコガ科

*Stauropus basalis* MOORE ヒメシャチホコ

西大寺水源地, 3. IX. 1965, 赤枝

" , 18. VI. 1966, "

*Nodata cristata* BUTLER セダカシャチホコ

西大寺水源地, 13. VII. 1966, 赤枝

*Fentonnia ocypete* BREMER ホソバシャチホコ

金甲山, 29. VI. 1968, 赤枝

*Harpyia lanigera* BUTLER ナカグロモクメ

西大寺益野, 5. VI. 1966, 赤枝

" 水源地, 8. V. 1969, 那須

*Wilemanus bidentatus bidentatus* WILEMAN モンクロギンシャチホコ

西大寺水源地, 25. VI. 1966, 赤枝

*Hybocampa umbrosa* STAUDINGER ギンシャチホコ

西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝

*Phalera takasagoensis takasagoensis* MATSUMURA タカサゴツマキシャチホコ

西大寺水源地, 20. VIII. 1965, 赤枝

*Phalera flavescens* BREMER et GREY モンクロシャチホコ

西大寺水源地, 22. VIII. 1966, 赤枝

*Clostera anachoreta* FABRICIUS ツマアカシャチホコ

西大寺水源地, 3. IX. 1965, 赤枝

" 山南中, 1. VI. 1966, "

*Clostera anastomosistristis* STAUDINGER セグロシャチホコ

西大寺水源地, 8. X. 1965, 赤枝

" , 25. V. 1969, 那須

*Rosama ornata* OBERTHÜR トビギンボシシャチホコ

西大寺水源池, 9. VII. 1966, 那須

*Pterostoma sinica* MOORE オオエグリシャチホコ

金甲山, 16. VI. 1968, 赤枝

" , 28. VI. 1969, "

*Uropyia meticulodina* OBERTHÜR ムラサキシャチホコ  
金甲山, 16. VI. 1968, 赤枝

### Lymantriidae ドクガ科

*Lymantria dispar japonica* MOTSCHULSKY マイマイガ  
岡大, ? 赤枝

*Ivela auripes* BUTLER キアシドクガ  
西大寺水源地, 5. VI. 1967, 赤枝

*Lymantria mathura aurora* BUTLER カシワマイマイ  
半田山, 3. VIII. 1960, 植物園

*Topomesoides jonasii* BUTLER ニワトコドクガ  
半田山, 7. VIII. 1960, 植物園  
竜の口, 24. V. 1954, 赤枝

*Parocneria furva* LEECH ウチジロマイマイ  
西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝  
" , 18. VI. 1968, "  
金 甲 山, 16. VI. 1968, "

*Euproctis similis* FUESSLY モンシロドクガ  
西大寺水源地, 18. IX. 1965, 赤枝  
" , 18. VI, 10. VIII. 1966, 赤枝

*Euproctis pulverea* LEECH ゴマフリドクガ  
西大寺水源地, 10. VII, 30. IX. 1966, 赤枝

*Euproctis fiava* BREMER ドクガ  
西大寺水源地, 25. VI, 26. VI. 1966, 赤枝  
金 甲 山, 10. VI. 1968, 赤枝

*Euproctis curvata* WILEMAN マガリキドクガ  
半 田 山, 12. VII. 1960, 植物園  
西大寺水源地, 13. VII. 1966, 赤枝  
" , 18. X. 1966, 那須

### Lasiocampidae カレハガ科

*Castropacha populifolia* ESPER ホシカレハ  
半田山, 20. VIII. 1960, 植物園

*Castropacha quercifolia cerridifolia* C et R. FERDER カレハガ  
西大寺水源地, 11. IX. 1965, 赤枝  
" 河本, 10. VII, 1966, "

*Philudoria aldomaculata* BREMER タケカレハ

半田山, 8. VI. 1961, 植物園

*Dendrolimus spectabilis* BUTLER マツカレハ

西大寺水源地, 3. IX. 1965, 赤枝

*Dendrolimus undans fiavela* MOTSCHULSKY クヌギカレハ

西大寺鴨越, 24. X. 1957, 赤枝

*Kunugia yamadai* NAGANO ヤマダカレハ

西大寺水源地, 29. X. 1965, 赤枝

*Odonestis pruni rufescens* KARDAKOFF リンゴカレハ

半田山, 20. VIII. 1960, 植物園

#### Callidulidae イカリモンガ科

*Pterodecta felderi* BREMER イカリモンガ

竜の口, 3. VI. 1964, 赤枝

#### Thyatiridae トガリバ科

*Tethea ampliata* BUTLER オオバトガリバ

西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝

金 甲 山, 16. VI. 1968, "

#### Drepanidae 力ギバガ科

*Macrauzata fenestraria* MOORE スカシカギバ

半田山, 20. VII. 1960, 植物園

*Auzata superba* BUTLER ヒツメカギバ

半田山, 23. VII. 1960, 植物園

*Aldara japonica* MOORE ヤマトカギバ

西大寺奥矢津, 28. VI. 1964, 赤枝

" 水源地, 23. IX. 1965, "

*Betalbara parvula* LEECH ヒメハイイロカギバ

半田山, 30. VI. 1961, 植物園

*Tridrepana crocea* LEECH ウコンカギバ

西大寺今町, 16. XI. 1963, 那須

#### Geometridae シャクガ科

*Agathia curvifiniens* PROUT アシブトチズモソアオシャク

西大寺水源地, ?. VI. 1966, 那須

- Tanaorhinus reciprocata confuciaria* WALKER カギバアオシャク  
西大寺水源地, 18. VI. 1966, 赤枝
- Geometra valida* C. et R. FELDER クロスジアオシャク  
金甲山, 16. VI. 1968, 赤枝
- Neohipparchus vallata* BREMER キマエアオシャク  
西大寺河本, 18. IX. 23. IX. 1965, 赤枝  
" 水源地, 1. VIII. 1966, 赤枝
- Comibaen delicatior* WARAEN クロモンアオシャク  
西大寺水源地, 20. VIII. 18. IX. 1965, 赤枝  
" , 10. VIII. 1966, 赤枝
- Chloromachia infracta* WILEMAN ヒメシロファオシャク  
金甲山, 24. VIII. 1968, 赤枝
- Ochrognesia difficta* WALKER シロファオシャク  
西大寺水源地, ? VI. 1967, 赤枝
- Euchloris albocostaria* BREMER ヨツメアオシャク  
西大寺河本, 23. IX. 1965, 赤枝  
" , 23. V. 10. VII. 1966, 赤枝
- Hemistola veneta* BUTLER コシロスジアオシャク  
西大寺水源地, 23. VI. 14. VII. 1966, 赤枝
- Calothysanis amata ovidius* BRYK ベニスジヒメシャク  
西大寺河本, 10. VII. 1965, 赤枝  
" 水源地, 26. V. 1966, 赤枝
- Somatina indicataria morata* PROUT ウンモンオオシロヒメシャク  
金 甲 山, 24. VIII. 1968, 赤枝  
西大寺水源地, 31. V. 1969, 赤枝
- Scopula emissaria lactea* BUTLER キトガリヒメシャク  
西大寺水源地, 18. IX. 1965, 赤枝  
" , 26. V. 1966, "
- Scopula nigropunctata imbellia* WARREN マエキヒメシャク  
西大寺水源地, 18. IX. 1965, 赤枝
- Scopula apicipunctata* CHRISTOPH クロテンシロヒメシャク  
金 甲 山, 24. VIII. 1968, 赤枝
- Scopula superior* BUTLER キナミシロヒメシャク  
西大寺水源地, 23. VI. 10. VII. 1. VIII. 1966, 赤枝
- Scopula ignobilis* WARREN ウスキクロテンヒメシャク

西大寺水源地, 18. IX. 1965, 赤枝

" , 11. VI. 1966, "

*Sterrha muricata minor* STERNECK ベニヒメシャク

西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝

" , 10. VII. 1966, "

*Sauris manaria* LEECH ヒゲブトナミシャク

西大寺水源地, 5. VI. 1967, 赤枝

*Orthonama shirahatai* INOUE ウスイロトビスジナミシャク

西大寺水源地, 13. VII. 1966, 赤枝

*Nycterosea obstipata* FABRICIUS トビスジヒメナミシャク

西大寺水源地, 24. V. 1966, 赤枝

*Coenotephria obscura* BUTLER フタモンクロナミシャク

金甲山, 16. VI. 29. VI. 1968, 赤枝

*Callygris compositata* GUENEE ナミガタシロナミシャク

金甲山, 14. VI. 1958, 赤枝

" , 16. VI. 1968, "

*Ecliptopera decurrents illitata* WILEMAN セスジナミシャク

西大寺奥矢津, 21. VI. 1964, 赤枝

竜の口, 5. IV. 1966, "

*Ecliptopera umbros aria* MOFSCHULSKY オオハガタナミシャク

金甲山, 16. VI. 1968, 赤枝

*Ecliptopera capitata mariesii* BUTLER セキナミシャク

西大寺益野, 20. XI. 1965, 赤枝

" 水源地, 18. XI. 1965, "

*Sibatania mactata mactata* C. et R. FELDER ピロウドナミシャク

竜の口, 17. VI. 1956, 赤枝

*Dysstroma japonica* HEYDEMANN フタテンナカジロナミシャク

金甲山, 16. VI. 1968, 浮田

本種は県下未記録である。

*Calospilos miranda* BUTLER ユウマダラエダシャク

西大寺水源地, 23. IX. 1965, 赤枝

" , 24. V. 1966, "

*Ninodes splendens* BUTLER ウチムラサキヒメエダシャク

金甲山, 18. VI. 1968, 赤枝

*Hyperehyra terrosa cyanargentea* WEHRLI ウラキトガリエダシャク

金甲山, 24. VIII. 1968, 赤枝

- Semiothisa pluviata* FABRICIUS ウスオエダシャク  
 西大寺水源地, 11. 九. 1965, 赤枝  
 " , 18. VI. 1966, "
- Ecteprina semilutea* LEDERER アカエダシャク  
 西大寺水源地, 23. IV. 1965, 赤枝  
 " , 18. VI. 1966, "
- Luxiaria amasa amasa* BUTLER トビカギバエダシャク  
 西大寺水源地, 29. VIII. 23. IX. 1965, 赤枝
- Cystidia truncangulata* WEHRLI ヒロオビトンボエダシャク  
 金甲山, 14. VI. 1958, 赤枝  
 " , 16. VI. 1968, "
- Culcula panterinaria syhnospilas* PROUT キオビゴマダラエダシャク  
 半田山, 6. VII. 1961, 植物園
- Percnia giraffatac* GUENEÉ オオゴマダラエダシャク  
 半田山, 21. VIII. 1960, 植物園
- Alcis angulifera* BUTLER ナカウスエダシャク  
 金甲山, 16. IV. 1968, 赤枝
- Alcis grisea* BUTLER フタヤマエダシャク  
 西大寺水源地, 26. VI. 1966, 赤枝
- Carecomotis repulsaria* WAIKER フトスジエダシャク  
 西大寺水源地, 11. 九. 1965, 赤枝
- Ophthalmodes albosignaria* BREMER et GREY ヨツメエダシャク  
 半田山, 20. VII. 1960, 植物園
- Ascotis selenaria cretacea* BUTLER ヨモギエダシャク  
 西大寺河本, 3. 九. 1965, 赤枝
- Ectropis aignerri* PROUT ウストビスジエダシャク  
 金甲山, 24. VIII. 1968, 赤枝
- Scionomia mendica mendica* BUTLER ツトキクロエダシャク  
 水源地, 29. X. 1965, 赤枝
- Thinopteryx crocoptera striolata* BUTLER キマダラツバメエダシャク  
 竜の口, 24. 九. 1954, 赤枝  
 西大寺奥矢津, 24. VIII. 1959, 赤枝
- Thinopteryx delectans* BUTLER ミヤマツバメエダシャク  
 半田山, 20. VIII. 1960, 植物園
- Erannis obliquaria* MOTSCHULSKY クロスジフユエダシャク  
 岡山東山, 2. XII. 1965, 田辺

*Megabiston plumosaria* LEECH チヤエダシャク

西大寺水源地, 10. XI. 1966, 赤枝

*Biston robustum* BUTLER トビモンオオエダシャク

半田山, 6. IV. 1960, 植物園

西大寺中, 21. II. 1966, 那須

*Biston comitata* WARREN ハイイロオオエダシャク

半田山, 3. VII. 1960, 植物園

*Buzura recursaria superans* BUTLER ウスイロオオエダシャク

金甲山, 16. VI. 1968, 赤枝

*Planocampa antipala* PROUT ヒロバトガリエダシャク

西大寺小, ?IV. 1965, 那須

*Bizia aexaria* WALKER ツマトビキエダシャク

半田山, 20. VIII. 1960, 植物園

*Gonodontis arida* BUTLER エグリヅマエダシャク

西大寺水源地, 2. X. 10. XI. 1966, 赤枝

*Auaxacesadaria sulphurea* BUTLER キエダシャク

竜の口, 14. VI. 1959, 赤枝

*Heterolocha aristonaria niphonica* BUTLER ウラベニエダシャク

西大寺水源地, 29. VIII. 1965, 赤枝

*Ourapteryx nivea* BUTLER ウスキツバメエダシャク

西大寺水源地, 29. X. 1965, 赤枝

### Heterogeneidae イラガ科

*Microleon longipalpis* BUTLER テングイラガ

西大寺水源地, 25. VI. 1966, 赤枝

" , 1. IX. 1966, "

*Parasa consocia* WALKER アオイラガ

西大寺河本, 18. VI. 1966, 赤枝

" 水源地, 23. VI. 1966, "

*Cnidocampa fiavescens* WALKER イラガ

西大寺水源地, 23. VI. 25. VIII. 1966, 赤枝

### Zygaenidae マダラガ科

*Elcysma westwoodii westwoodii* Snellen van VOLLENHOVEN ウスバツバメガ

金山, 26. IX. 1965, 赤枝

*Pidorus glaucopis atratus* BUTLER ホタルガ

竜の口, 23. VI. 1955, 赤枝

西大寺, ?, VII. 1969, "

*Chalcosia remota* WALKER シロシタホタルガ  
半田山, ?, 植物園

#### Cossidae ボクトウガ科

*Zeuzera leuconotum* BUTLER ゴマフボクトウ

西大寺奥矢津, 24. VIII. 1959, 赤枝

" 水源地, 25. VI. 1966, "

*Phragmataecia castaneae* HBNER ハイイロボクトウ

西大寺水源地, 5. VI. 1967, 赤枝

*Cossus iaponica* GAEDE ボクトウガ

西大寺河本, 3. IX. 1965, 赤枝

#### Psychidae ミノガ科

*Clania minuscula* BUTLER チヤミノガ

西大寺水源地, ?. V. 1967, 赤枝

*Clania variegata* SNELLEN オオミノガ

西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝

#### Thyrididae マドガ科

*Striglina scitaria* WALKER アカジママドガ

西大寺水源地, 2. V. 1969, 那須

*Rhodoneura vitulla* GUENÉE マダラマドガ

西大寺水源地, 25. VIII. 1966, 赤枝

#### Pyralididae メイガ科

*Lamoria ruficostella* RAGONOT アカツヅリガ

西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝 イツテンコクガ

西大寺神崎, 6. V. 1966, 赤枝

*Crambus argyrophorus* BUTLER シロスジツトガ

西大寺山南中, 11. VI. 1966, 赤枝

*Pediasia atrisquamalis* HAMPSON クロフタオビツトガ

西大寺水源地, 22. VIII. 1966, 赤枝

*Chilo suppressalis* WALKER ニカメリガ

西大寺水源地, 26. V. 9, VI. 18, VI. 1966, 赤枝

- Schoenobius incertulas* WALKER イッテンオオメイガ  
西大寺水源地, 18. VI. 1966, 赤枝
- Schoenobius praelata* SCOPOLI ムモンシロオオメイガ  
西大寺河本, 18. VI. 1966, 赤枝  
" 水源地, 10. VII. 1966, "
- Emmalocerabifidella* WILEMAN オオマエジロホソメイガ  
西大寺水源地, 23. 九. 1965, 赤枝  
" , 10. VII. 10. XI. 1966, "
- Nephopteryx semiru bella* SEOPOLI アカマダラメイガ  
西大寺水源地, 25. VI. 1966, 赤枝
- Dioryctria splendidella* HERRICH-SCHÄFFER マツノオオマダラメイガ  
西大寺水源地, 24. VII. 1966, 赤枝
- Macalla elegans* BUTLER ナカアオフトメイガ  
西大寺水源地, 26. V. 23. VI. 1966, 赤枝
- Macalla amica* BUTLER オオフトメイガ  
西大寺水源地, 18. VI. 1966, 赤枝  
金 甲 山, 16. VI. 1968, "
- Craneophora flicki* CHRISTOPH ナカムラサキフトメイガ  
西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝  
" , 5. VI. 1967, "
- Stemmatophora valida* BUTLER トビイロフタスジシマメイガ  
西大寺水源地, 18. VI. 2. VII. 1966, 赤枝
- Herculia glaucinalis* LINNÉ フタスジシマメイガ  
西大寺水源地, 20. 九. 1965. 赤枝  
金 甲 山, 16. VI. 1968, "
- Sybrida fasciata* BUTLER オオクシヒゲシマメイガ  
西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝
- Endotricha icelusalis* WALKER オオウスベニトガリメイガ  
西大寺水源地, 11. IX. 1965, 赤枝
- Nymphula interruptalis* W. PRYER マダラミズメイガ  
西大寺水源地, 13. X. 1965, 赤枝  
" , 16. VII. 1966, "
- Nymphula turbata* BUTLER ヒメマダラミズメイガ  
西大寺河本, 23. IX. 1965, 赤枝  
" 水源地, 25. VIII. 1. IX. 1966, 赤枝
- Nymphula vittalis* BREMER イネコミズメイガ

西大寺水源地, 11. IX. 1965, 赤枝

" , 18. VII. 1966, "

*Nymphula fluctuosalis* ZELLER イネミズメイガ

西大寺水源地, 25. VIII. 1966, 赤枝

*Syllepte luctuosalis zelleri* BREMER モンキクロメイガ

西大寺水源地, 3. IX. 18. IX. 1965, 赤枝

*Maruca testulalis* GEYER マメノメイガ

西大寺水源地, 3. 九. 2. X. 1966, 赤枝

*Uresiphita prunipennis* BUTLER ウスベニオオノメイガ

西大寺水源地, 23. VI. 1966, 赤枝

珍らしい種である。

*Micractis varialis* BREMER フキノメイガ

西大寺水源地, 21. VIII. 1966, 赤枝

" , 14. V. 1969, "

*Micractis nubilalis* HÜBNER アワノメイガ

西大寺水源地, 30. IX. 1965, 赤枝

" , 18. VI. 2. VII. 1966, 赤枝

*Micractis memnialis* WALKER ユウグモノメイガ

山南中, *Udea testacea* BUTLER クロモンキノメイガ

西大寺益野, 15. XI. 1965, 赤枝

ヘリグロキンノメイガ

西大寺河本, 23. IX. 1965, 赤枝

*Circobotys aurealis* LEECH キペリハネホソノメイガ

西大寺水源地, 30. V. 1967, 那須

*Phlyciaenia verbascalis* DENIS et SCHIFFERMÜLLER ヒメトガリノメイガ

西大寺水源地, 11. IX. 1965, 赤枝

" , 13. V. 24. V. 1966, 赤枝

ホソオビホソノメイガ

西大寺水源地, 30. IX. 1965, 赤枝

*Botyodes diniasalis* WALKER タイワンウスキノメイガ

西大寺水源地, 3. IX. 1965, 赤枝

少ない種である。

*Hedylepta misera* BUTLER ヒメクロミスジノメイガ

西大寺水源地, 11. 九. 1965, 赤枝

*Palpita nigropunctalis* BREMER マエアカスカシノメイガ

西大寺水源地, 3. 九. 1965, 赤枝

西大寺水源池, 23. 九. 1966, 赤枝

*Dichocrocis punctiferalis* GUENEE モモノメイガ

金甲山, 29. VI. 1968, 赤枝

*Hedylepta noctescens* MOORE キバラノメイガ

金甲山, 16. VI. 1968, 赤枝

*Eurrrhyparodes accessalis* WALKER アヤナミノメイガ

西大寺水源地, 10. VII. 1966, 赤枝

*Sylepta tristrialis* BREMER クロアシクロノメイガ

西大寺水源地, 29. VIII. 1965, 赤枝

*Diasemia accalis* WALKER キアヤヒメノメイガ

西大寺水源地, 10. VII. 1966, 赤枝

*Glyphodes perspectalis* WALKER ツケノメイガ

西大寺元町, ? 赤枝

#### Tineidae ヒロズコガ科

*Homalopsyche agglutinata* MEYRICK ナガバヒロズコガ

西大寺益野, 17. VII. 1966, 赤枝

#### Eucosmidae ノコメハマキガ科

*Epinotia leucantha* MYRICK ハナウドムグリガ

西大寺水源地, 10. VII. 1966, 赤枝

*Hystrichoscelus spathanum* WALSINGHAM コシロアシハマキ

西大寺水源地, 30. IX. 1965, 赤枝

" , 10. XI. 1966, "

### 参考 文 献

岡山県 (1930) 岡山県内生物目録.

赤枝一弘 (1955) 西大寺産スズメガ目録, すずむし, 5卷10号.

赤枝一弘 (1957) 同. 追加, すずむし, 6卷3号.

榎本精二 (1963) 蛾2題, すずむし, 13卷2号.

— (1964) 岡山県の蛾スズメガ科, すずむし, 14卷1号.

赤枝一弘 (1964) 県下で採集した蛾, すずむし, 14卷2号.

杉 繁郎・榎本精二 (1965) 岡山県下におけるシンジュキノカワガの採集記録, 蛾類通信, No. 38.

榎本精二 (1965) 岡山県の蛾 6 オオカギバ科, カギバ科, すずむし, 15卷1号.

— (1965) 1965年同定会の蛾について, すずむし, 15卷2号.

赤枝一弘 (1965) 本年採集した西大寺市のスズメガについて, すずむし, 15卷3号.

— (1966) 山南地区夏期休暇採集品目録.

- 赤枝一弘 (1966) 本年採集したシャクガ, すずむし, 15巻3号.
- 田辺恒彰 (1966) 今年の冬採集した蛾, すずむし, 16巻1号.
- 楳本精二 (1966) 岡山県未記録の蛾, すずむし, 16巻2, 3, 4号.
- 赤枝一弘 (1966) 本年県下で採集したスズメガについて, すずむし, 16巻2, 3, 4号.
- (1966) 西大寺産スズメガ発生状況, すずむし, 16巻2, 3, 4号.
- 田辺恒彰 (1966) モリヤママドガ岡山市に産す, すずむし, 16巻2, 3, 4号.
- 赤枝一弘 (1967) 岡山県で採集した比較的珍らしい蛾, 蛾類通信, No. 47.
- (1968) 岡山県未記録の蛾について, すずむし, 17巻1号.
- 木村基樹 (1968) 西大寺市内でコウチスズメを採集, すずむし, 17巻2号.

### 〈おとしぶみ〉

#### ホソバミツモンケンモンについて

先に総会で発表した種は杉氏により、大陸に分布する *Cymatophoropsis unca* ホソバミツモンケンモンと同定され、近々発表の予定と聞く、ここでは採集の状況を少し書いてみたい。15. VI. 1969. この日も浮田氏と旭川ダムへ向ったが、この日は寒く蛾の飛来もあまりよくなかったので、いつも熱心な浮田氏も早々と自動車へ引上げられた。私はなおもねばって本種を1頭だけ採ったわけであるが、採集時から3個の紋は目立っているが、従来盛岡、宇都宮、長野から知られているミツモンケンモンと同一種とは思われなかつた。私は不注意にも広島からミツモンが記録されていることを失念していたが、杉、楳本氏により教授され、杉氏によれば岡山、広島の物は従来の種と別種であろうということであった。さらに徳島県で3か所目の産地が発見され、上記の種名が付いたわけである。

(赤枝 一弘)

# Maddester 雜言録 (10)

水野弘造

(宇治市蔭山55 日レ社宅)

## ☆和名改革論 (2)

前回はかなり主観的立場から昆虫の和名における人名冠称を攻撃したが、今回はより客観的立場から蝶と天牛の和名の現状を分析し問題点を指摘し、意見を述べる。

次表は「原色昆虫大図鑑 (I) (II)」(北隆館 1962, 1965) より蝶と天牛の和名を抽出し、分析したものである。主観的に分析したのでその数に若干の個人的誤差が入ることはお許し願う。例えばアオキクシカミキリ、ニセリンゴカミキリの如きは食樹冠称と考えず、いずれも斑紋形態に基づく命名と考えた。勿論のことキクシカミキリとリンゴカミキリは食樹冠称と考え、ギフチョウは産地冠称と考えている。

### 蝶の和名の命名由来

亜科	人名冠称によるもの	産地名冠称によるもの	斑紋形態に基くもの	生態食樹に基くもの	その他	計
セセリチョウ	0	3	18	3	1	25
アゲハチョウ	0	2	13	2	1	18
シロチョウ	0	5	14	4	0	23
シジミチョウ	4	18	37	3	2	64
ウラギンシジミ	0	0	1	0	0	1
マダラチョウ	0	1	7	0	0	8
テングチョウ	0	0	1	0	0	1
タテハチョウ	0	6	41	0	2	49
ジャノメチョウ	0	1	18	3	0	22
総数	4	36	150	15	6	211
(%)	1.9	17.1	71.1	7.1	2.8	100

### 天牛の和名の命名由来

亜科	人名冠称によるもの	産地名冠称によるもの	斑紋形態に基くもの	生態食樹に基くもの	その他	計
ノコギリカミキリ	1	2	6	0	0	9
クロカミキリ	0	0	1	0	0	1
マルクビカミキリ	0	0	6	1	0	7
ホソカミキリ	1	0	1	0	0	2
ハナカミキリ	13	21	83	6	2	125
カミキリ	17	17	76	11	2	123
フトカミキリ	16	27	135	16	0	194
総数	48	67	308	34	4	461
(%)	10.4	14.3	66.8	7.4	0.9	100

和名の大半は（蝶の 71%，天牛の 68%），斑紋・形態を適確に表現してある：ウラジャノメ，シラホシヒゲナガコバネカミキリ。

少し特殊な分布を示す種には産地の冠称がされており，これも原則的には問題がない：エゾシロチョウ，リュウキュウムラサキ，キュウシュウチビトラカミキリ。しかし産地冠称を不用意に行なうと例えばヒメギフチョウの如く岐阜には居ない種（？）にまで地名が入ることが起る。従ってこの点を考慮すればギフチョウは古く用いられたダンダラチョウの名に戻すべきであろう。一般にあまり知られぬ地名，例えばニヨウホウ，クロソン，ヒサマツ，イブリ，タッパン，アサヒなどは人名などとの混同も考えられ好ましくない。蝶の産地名冠称は 17% と天牛の 14% に比較し高率である点が人名冠称の比率（蝶 2%，天牛 10%）と比較して対称的である。人名冠称は日本産の蝶に関する限り低率で喜ばしい。その少數の具体例はルーミス，ハヤシ，スギタニ，およびシルビアであり私には人名とも地名とも植物名とも判断しかねるイワカワが人名としても 5 例である。この中には天然記念物にまでなったルーミスシジミが入っていて改名論を出したとしても遅過ぎの感が深いが，少くともシルビアシジミという名は人名か否かすら普通には判りかねるからタイワンコシジミの方を使用したいものである。

天牛の人名冠称が多すぎることは前回に述べた通りであり上表よりも明らかである。ニイジマチビカミキリというのがありこれが人名か地名か判りかねるところに対馬から近似種が出てツシマニイジマチビカミキリ\*\* などと実に難解な仮称を与えるなければならない。これは属名に人名（？）をつけた失敗例でありギフチョウの場合と同じく抜本的改名の必要がある。同じことが食樹冠称にもいえて、食樹冠称自体はその生態を端的に表わす優れた語法であるが、リンゴカミキリなどと最初のものを名づけたためにクスノハイイロリンゴカミキリ\*\* と素人が聞いたたら何の意味かさっぱりわからぬ名前が出来る。一方食樹を示すものでないのにケシカミキリというのがあり、アサカミキリ，ハンノキカキリなどと同等に用いられる点も問題がある。

蝶にも天牛にもジャコウを冠称するものが 1～2 例あった。嗅覚的命名は他が圧倒的に視覚によっている点で珍らしいが他の用語例の見当らないのは残念である。なお特殊な用語として蝶にはミカド，ダイミョウ，アイノ\* など象徴的意味をもつものがあり，スミナガシ，ヒオドシなどもかなり凝った命名と考えられる。これに反し天牛には精々ヌバタマオトメ\*\* 程度の形容語しか見出せないし、蝶ではカラス，クジャク，ツバメなど鳥に因んだ名がよく付けられるのに対し、天牛ではホタル，カッコウ（鳥でなく虫の方）などが引用される程度にとどまりニセナントカカミキリが多いのも情ない限りである。蝶に較べ天牛の命名は未だ幼稚な段階といわざるを得ない。

上表中私には由来不明の和名が 3 つあり即ちイワカワシジミ（人名？），シララカハナカミキリ（地名？），カンボウトラカミキリで「その他」の項に算入した。

・閑話休題。本誌 Vol. 8, p. 44 の大山産昆虫目録中にクロンボホソトラカミキリなる

\* アイノミドリシジミはアイヌミドリシジミとすべきである。D君は南アルプスの間の岳（アイノダケ）に由来するものと誤解していた。アサマシジミ，ヤリガタケシジミ，トガクシジミ\*\* などからの類推によって無理からぬ話である。

和名が見え、あまり見なれない名だがさてと学名を見れば *Raphuma acutivittis*となつていてこれはカンボウホソトラカミキリ\*\* の誤植であることが判明する。これは旧仮名クワンボウホソトラを印刷業者が読み違えてクロンボウホソトラ→クロンボホソトラとなったものと推定される。かつて Maddester の間でカンボウとはそもそも何の意味ぞやで議論をかもしたことがあって、E君は紋様の具合が風邪引きを連想させるから「感冒」だらうと解釈したものだが未だに私には意味が判らず、上記の誤植に同情を寄せざるを得ない。クロンボトラカミキリの和名ならば意味は誰にでも判るが *acutivittis* のイメージとは一致しないから、この和名は現在のヨコヤマトラカミキリに与えたいものである。

斑紋、形態によって命名する場合はその虫のイメージを正確に画くという点では間違いが少く確かに便利であるが、感覚的情緒的雰囲気にはどうしても欠けるうらみが出ることを脱れない。私の家内はヒゲナガコバネカミキリはエンゼルカミキリ、モモブトコバネカミキリはボパイカミキリといずれも自己流に命名してゆづらない。

浅田孝二氏（「愛蝶記」新紀元社 1967, p. 35）は蝶の和名に関して無風流で詩的感覚に乏しいとの声に対して共感を寄せながらも「その道の専門家たちがいろいろと検討した上で落ちついたところが現在行なわれている呼び名なのだから、最も合理的なものか、少なくともそれに近いものであることは間違いないだろう。それでも不満があれば、各自で気に入ったベットネイムでもつけるより仕方があるまい。」と甚だ妥協的であるが、果して蝶の和名は氏のいわれるよう専門家達の充分な検討を経て民主的に決定されたものであろうか。この場合の専門家達とは分類学者だけでなく、詩人や国語学者をはじめとして全く分野を異にする見識高い代表者達から構成された委員会でなければなるまいと考えるのであるが、諸兄の意見は如何であろう。

\*\* この和名は「原色大図鑑」では用いられていない。

### 1969年度例会記録

1969 年度 例会は 1969 年 11 月 16 日午後 1 時から倉敷市住吉町の岡山大学農業生物研究所会議室でおこなわれた。

会務会計報告の後、赤枝一弘、近藤光宏、脇本浩、佐々木隆、黒田祐一各氏による発表があった（詳細は倉昆ニュース, Dec. 14, '69 を参照）。

出席者は右の寄せ書きのとおりである。



## 倉敷昆虫同好会顧問

深谷昌次先生  
石原保先生  
小泉憲治先生  
安江安宣先生  
佐藤清明先生  
杉山章平先生  
白水隆先生  
重井博先生

## 医療法人

# 重井病院

倉敷市幸町 TEL(22)3655

すずむし Vol. 20, No. 1. November 28, 1970

## 倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町 (倉敷昆虫館内)

振替口座 岡山 6927

本部 (倉敷市住吉町 岡山大学大原農業生物研究所内)